

作新学院新聞

発行所 宇都宮市一宮1-1-41 作新学院
編集 宇都宮市一宮1-1-41 作新学院
印刷 宇都宮市一宮1-1-41 作新学院

平成二十七年作新学院卒業式日程
▽三月(一日) 高等学校(総合体育館)
▽三月(十日) 中等部(小・中体育館)
▽三月(十四日) 小学部(小・中体育館)
▽三月(十三日) 幼稚園(プレイルーム)

ご卒業おめでとう



「130周年記念人文字」 撮影/国際総合企画

今こそ複眼的視野が大事

学院長 船田 元



卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。昨年は最上級生である皆さんとともに、創立百三十周年を盛大に迎えました。またそれを記念して、トップ英語部の開設や新制服の導入、アフリカ一万足プロジェクトや小惑星命名、そしてアカデミア・ラボの構想発表など、盛り沢山のイベントが行われました。

これらに皆さんも積極的に参加していただき、大いに盛り上がりましたが、卒業生の皆さんの心の中にも、温かい思い出として残っていくでしょう。またそれらに皆さんも積極的に参加していただき、大いに盛り上がりましたが、卒業生の皆さんの心の中にも、温かい思い出として残っていくでしょう。またそれらに皆さんも積極的に参加していただき、大いに盛り上がりましたが、卒業生の皆さんの心の中にも、温かい思い出として残っていくでしょう。

皆さん、ご卒業おめでとうございます。昨年は最上級生である皆さんとともに、創立百三十周年を盛大に迎えました。またそれを記念して、トップ英語部の開設や新制服の導入、アフリカ一万足プロジェクトや小惑星命名、そしてアカデミア・ラボの構想発表など、盛り沢山のイベントが行われました。

これらに皆さんも積極的に参加していただき、大いに盛り上がりましたが、卒業生の皆さんの心の中にも、温かい思い出として残っていくでしょう。またそれらに皆さんも積極的に参加していただき、大いに盛り上がりましたが、卒業生の皆さんの心の中にも、温かい思い出として残っていくでしょう。

「命」を知り、「命」を果たす

理事長 船田 恵



卒業を迎えられた皆さん、誠におめでとうございます。また、ここまで成長を支えてくれた保護者の皆様方にも、心からお慶び申し上げます。

学院創立百三十周年を迎えた今年度、世界は大きな転換点を迎えようとしています。

地球環境の悪化は深刻さを増し、頻発するテロや難民問題はこれまでに人類が築き上げてきた秩序や安定を根底から覆しかねない状況です。

そうした世界の荒波に加え、日本は急速な少子高齢化と膨大な財政赤字という更なる試練を抱えています。

激動と混沌の時代、私たちは一体どのような生き方を行けばいいのでしょうか。と心ふさがちな今だからこそ、作新が刻みできた百三十年という時の重みは大きな意味と力を持つと思います。

百三十年の月日には、日清・日露、第一次・第二次と世界的な大戦が幾つもありました。日本全体が焦土と化し、食べるものすらな

いどん底の時代もありました。それでも作新学院に集った先人たちは、決して諦めることも投げ出すこともせず、その日その日の一瞬を誠実に懸命に生き抜いて、今日まで「命」のパトンをつないで来たのです。

この世のありとあらゆる存在には「命」があります。「命」とは天から与えられた役割、果たすべき使命です。中国の重要な古典「四書」の一つ「中庸」に、次のような一節があります。

天命を尊ぶをこれ性と謂い、性に率うるをこれ道と謂い、道を修むるをこれ教と謂ふ。

天から与えられた「命」によって、それぞれの存在には「性」が備わっています。「性」とは性格や個性、能力といったものです。

備わった「性」に率って進むと、それは「道」となり、各々の「命」を果たすための道となります。

ただ人間はとく不完全な生き物なので、「道」からはずれないように心や行動を修めたいといけません。これが「教」ということです。

皆さんは、これまで作新学院で様々な「教育」を受けてきました。それはすべて、これから皆さんがそれぞれに与えられた「命」をより深く知り、自分自身で

校選手権大会 女子63kg級

世界がキャンパス。地球の未来は、私たちが守る。

卒業生の言葉 中等部

中等部の三年間を通して

生徒会長 近藤 毅



スキー合宿



百人一首かるた大会



震災学習

不安と期待を胸に入学したあの日から三年。楽しかった中等部生活に、いよいよ別れを告げる時が近づいてきました。これまでも振り返るとたくさんの思い出がよみがえってきます。東日本大震災の被災地では、門脇中学校のみなさんと交流し、被災地の「心」を知るとともに、自分たちは何をすべきかを考えました。修学旅行では古都を訪ねて歴史の被災者の方々の体験談をうかがい、この記憶を風化させてはならないということに改めて感じました。その他にも作新学院創立一三〇周年記念文化祭や運動会、合唱コンクールなどの行事でも、友と協力して一つのものを作り上げ、大きな達成感を味わうことができました。

そしてなにより私にとつてのかけがえのない思い出は、友と一緒に学び、笑いあった普段のなげない中等部生活の一日一日でした。本当に楽しい日々でしたが、私たち中等部三年生はこれからそれぞれの夢に向かって一歩踏み出さなくてはなりません。今後生きていく中でたまたま何かにぶつかったとしても、中等部生活で身につけた力を生かし、乗り越え頑張っていきたいと思えます。最後に、今まで私たちを支えてきてくださった諸先生方と保護者の皆様には、本当にお世話になりました。ありがとうございました。支えていただいたことに対する感謝の念を胸に、作新学院の名に恥じぬよう、未来に歩んでいきたいと思っています。



修学旅行



りんご狩り



クリスマス音楽祭

保護者の言葉 幼稚園

遅しく成長した子ども達

保護者 似鳥 学様 亜州くん



どんど焼き



雪遊び



豆まき

3年前を思い起こすと、小さな手をぎゅつと握りしめ、不安そうなお顔の子どもと共にこの作新学院幼稚園に入園した日が、まるで昨日のことのように思い出されます。初登園した日から沢山の経験をし、小さいながらも遅く成長した子ども達も、孝子校をまじまじと見て偉大さを感じた春。プル開きに大興奮した夏。お泊り保育は家族と離れ、先生とお友達だけで過ごす一晩に「一夜は眠れてるのか」と親の方が心配で眠れなかった一日。皆で力を合わせて頑張った秋の運動会。遠足はお友達とのグループ行動で一段と団結力が深まりました。子ども達の笑顔の為に、保護者も一所懸命頑張ったことも多かったです。学生時代に戻ったかのようでした。小学部との交流で餅つきとどんど焼きを体験し、日本の伝統文化に触れた事でも一つ成長した冬。幼稚園生活最後のことも劇場は集大成を見せつけてくれた。そして何より私がこの作新幼稚園に感謝している事は、「食」について体験させてくれた事です。野菜の苗植えや田植えや稲刈り、じゃがいも堀りや梨もきり。人は畑の実りで生きている事の大切さを教えてくださったと思います。子ども達は泣いたり笑ったり、時には喧嘩したりしながら季節を超えながら大きく遅く成長してくれました。様々な場面であたたかく、時には厳しく見守ってくれた先生方。命を預かる心労は相応なものだと思います。本当にありがとうございました。最後に、先生が、作新幼稚園の益々のご発展と、園長先生をはじめ諸先生方の益々のご活躍をお祈り致します。



【被災地から届いたお礼】

万石浦幼稚園から送られたお米におにぎりづくり・かわいいリボンが付いた壁紙



卒業生の言葉 高等学校

新しい決意

生徒会長 英進部 吉上 葵



校外学習



特別講演会



ケンブリッジ語学研修

三年前、私はある友人からもらった「き」と作新にはあなたの使命のようなものがあるはずだよ」という言葉をそのままのようには抱きながら作新学院の校門をくぐりました。今振り返ってみると、その「なにか使命のようなもの」を手探りで探しながらかつた三年間だったように思います。今日卒業の日を迎え、青春のすべてを捧げたグラウンドや体育館、そして教室を訪れた時、初めてその場所を過ごした日々が、自分たちにとってかけがえのないものだったと気づかされました。そしてその瞬間に私たち一人一人の中に次のステージに進むのだという

新しい決意が生まれるのを感じます。新しく入学してきた後輩たちが、作新学院の生徒であることを誇りに思うような学校を築いていきたいと考えてきました。今度は私たち自身が、後輩や作新学院に誇れるような卒業生でありたいと思います。卒業式にのぞむこの瞬間、ようやくこの作新学院に入学した意味を見つけたような気がしています。今この伝統ある作新学院を後輩たちに託すことになりましたが、来年、再来年、そして何十年後も後輩たちがこの伝統ある作新学院を守り、さらなる歴史を築き上げてくれることを心から願っています。



修学旅行(2年)



球技大会

音楽発表会
(ライブデザイン3年)

卒業生の言葉 小学部

小学部での六年間

児童会長 岡本 玲奈



異文化体験学習



幼稚園生との交流



運動会

六年前、満開の桜の中、白い門をくぐり、新生活への期待と不安を抱きながら入学式を迎えたことを、昨日のことのように覚えています。この六年間、さまざまな行事を通じて多くのことを学び、たくさんの思い出ができました。運動会では、六年生は自分の競技に集中するだけでなく、誘導、準備、放送とさまざまな係の仕事も同時に、責任感を学びました。また、応援合戦では選曲から振り付けまで全てを決めて、下級生にも指導します。みんなで作りに上げていく中、団結力を実感できました。クリスマス音楽会では、学年が上になるにつれ、楽器の種類も増えました。六年生の時には、曲が長くなり、管楽器、弦楽器、ピアノまでを自分達で演奏しました。私達は「ジュラシックパーク」という壮大なイメージの難曲でした。本番は、とても感動的な演奏ができ、涙したことを覚えています。六年間、たくさんの思い出を作れたのは、私達に優しく指導して下さった先生方、共に学び、遊んだ友達、どんな時でも支えて応援してくれた家族のおかげです。心から感謝しています。ありがとうございました。私達はこれで卒業です。一緒に過ごしてきた友達と別れるのは寂しいですが、小学部での思い出を胸に、刻み、学んだことを、これからの中学校生活に活かしていきたいと思っています。



感謝祭



長距離走大会



クリスマス礼拝